

01月22日(日)開催 第2968回例会

兵庫県山岳連盟同調 自然観察山歩

楽しく学べる植物観察・パートⅢ

「仲冬の白川の里を訪ねる」に参加して

布引支部 K.H

この一週間、南北両方からの低気圧の影響や、北からの寒波の流れ込みなどで、神戸も雪や氷雨の日が続き、今年初めての「観察山歩」が行われるかどうか心配しながらの参加でした。しかし、集合場所である「しあわせの村」へ行くと、出発予定の9時30分には、40名余りの参加者の方が集われていました。応援講師はここ何回かご指導下さっている「仁科講師と坪田講師」。お二人は、吉野自然保護委員長とご一緒に植物の勉強をされておられる仲間とのこと。とにかく植物には大変詳しく、何を質問しても即座に答えて下さる素晴らしい講師の方々でした！

観察は出発後、即座に始まりました。バス道添の歩道にも小さな草花（ブタナ・シロバナマンテマ・オオイヌノフグリなど）が息づいており、冬芽を膨らました木々（コブシ・メタセコイアなど）と共に、ルーペも活用しての説明を受けました。



(説明を聞いたりルーペで観たり・・・)



広大なしあわせの村の西端から山道へ入ると、神戸層群の地層が有り、何時も地図の指導をして下

さる藤崎先生が大変詳しく説明をして下さいました。この辺りは3500万年前は湖だった場所とのことで、周辺では湖に沈んだ植物の化石を発掘することが出来るとのことでした。何時だったか忘れましたが、恐竜が地球上から姿を消したのは6500万年前だと聞いたことがありました。何れにしてもそんな時代のことは想像もつきません！



(地層の説明に聞き入る参加者)

静かな白川の里のシンボルは、山伏山神社入口にある「石抱きカヤ」。郷土記念物に指定され、県内8位のカヤの木であるとの説明が記載されていました。それにしても樹齢350年、幹の周り4.5メートル、高さが20メートルもあるこの名木が小さな石の柱を抱いている様は微笑ましくも有りました。



(山伏山神社入口にある「石抱きカヤ」)

白川・大歳神社境内で足早に昼食を済ませ、白川峠の北側にある「高御座山」へ向いました。小高い山は木々に覆われ、見通しは有りませんでした。伝説で伝わるイザナギの命とイザナミの命が日本の国を造られた際に、休息されたという

「雄高座」と「雌高座」を訪ねました。説明では



(高御座山への登り)

この時期しか出会えない冬芽や春を待つ小さな草花たち。そんな愛おしいまでの植物を観察でき、ロマン溢れる白川の里を存分に散策出来た大満足の1日でした。講師の皆様に心より感謝申し上げます。

天候：曇り時々晴れ

参加者：42名



雄高座 (おこうざ)

雄高座は40畳、雌高座は30畳もの広さのある平らな岩場で、如何にも古代ロマンの伝説の場所だと感じました。のちのちには神功皇后や安徳天皇がここからの眺めを楽しまれたと伝えられているそうです。



(40畳敷もある岩座 (雄高座) にて/記念撮影)



(雌高座にて解説を聞く参加者)